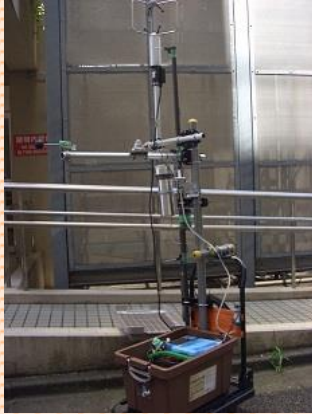


# 都市における温熱環境調査

文責 河野・松井・白井

2016年8月25日に東京都大田区に位置する東京工業大学周辺の区域において温熱環境調査を実施しました。調査日の気温は猛暑日に近い値となり、熱中症リスクとしては高くなると予想される日でした。この調査の目的は、昨年行った津田沼キャンパスにおける温熱環境調査において地表面性状や高度によって熱中症リスクが異なることが明らかになったので、領域を広げて住宅街と熱中症リスクとの関係を見ることです。



今回は気温・湿度・気圧・風速・黒球温度・日射量の気象要素（写真左）と魚眼カメラ・可視カメラ・GPS受信機（写真中央）を2台の台車に取り付け、移動観測を行いました。これらの結果から街区における熱中症リスク評価を行いました。\*都市でかつ道路に囲まれた一区画

2台の台車はおよそ5mの間隔をキープしながら走行し、悪路や重さによる転倒の危険があるので2人態勢で台車を押しました。

観測ルート内には池やビル、商店街や住宅地（写真左から順）などの特徴があります。これらを踏まえて解析を行いました。



観測は日向を走行するように心掛けたため、肌で感じる熱は非常に息苦しいものがありました。さらにこの地域は起伏が激しいため、坂道では補助員なしでは走行できませんでした。日中の観測が終了し、データを確認すると欠損しているものが多々あったため、話し合いの結果、当日は2回目の移動観測も行いました。

いろいろトラブルがある中、また暑い中本当にお疲れ様でした。来年も実施したいと思うので、大気圏環境研究室の学生はご協力よろしくをお願いします。

